校長室だより～燦燦～ №７０９

期末面談

2023.2.28

教職員人事評価制度が導入されて数年が経過した。すっかり制度として馴染んできた感がある。この制度には、期首面談、中間面談、そして期末面談がある。先生方お一人お一人からの説明を聞いた後に、質問をしたり助言をしたりするわけである。

期首面談では、先生方に期待したいことを中心に話していた。期末面談では、そうしようと心がけていたわけではないのだが、感謝の言葉が次から次へと出てきた。その結果、助言という色合いは薄くなった。

今年度、期末面談をやってみて気が付いたことがある。自分の話す内容が今までとは変わってきているという点である。先生方の記述内容やお話には、必ずキーワードがある。それが以前よりも明確につかめるようになってきた気がする。

先生方は、この１年で自分が努力したことを中心に話している。その中からキーワードを見つけ出せないようでは感謝も助言も出てこない。キーワードがわかると、それをもとに絞って話をすることができる。また、期首面談の際に先生方にお伝えした期待したいことを受けて、感謝の気持ちを届けるようになった。

自分の中で何が変わってきたのだろうか。経験を積んできているという点はある。だが、それだけではない。以前は、質問や助言を事前に準備していたこともあった。これがうまくいかない。今は、ある程度は準備しておくが、先生方の話を聞いてから、その場で考えて話すようになった。キーワードをもとに話すのも、その一つである。

もしかしたら、自分がまもなく一人の教員として、教諭として教壇に復帰することを想定しているからではないかと考えた。今のうちに、先生方お一人お一人からお話を聞いて、自分のものにしようとしているような気がする。

今まで以上に、先生方の努力や実績をよく見るようになってきたと感じる。やはり教員としての自分のゴールが校長だと思っていたものが、再び授業を担当するとなると、ものの見方や考え方が変わってくる。結局、今の仕事にはプラスに働いている。

教職員人事評価制度の１年目から思っていたことがある。普段顔を合わせているのに、あえて面談という形で話をするところに意義がある。人事評価シートという作戦シートを通して、同じ話題で同じ方向を向いて話すことができる面談という時間には、大きな意味がある。それは、数年経った今も変わらない。

明日から３月である。期末面談の中では、次年度以降のことも先生方からお考えを聞いた。残り１か月で、それらを形にしていきたい。そして、次年度も、ますます先生方の活躍からキーワードをつかめるようにしていきたい。